

TAMA CINEMA FORUM 会報

T x C x F x x K

2009

Apr



特集

DIY+文化

4月上映会 『大丈夫であるように Cocco 終らない旅 』

新実行委員募集説明会レポート

「想い事」書くことから始めてみませんか。

『大丈夫であるように——Cocco終わらない旅——』

上映会に向けて——

TAMA 映画フォーラムは「映画をきっかけとした市民の広場づくり」をコンセプトとして掲げています。映画のなかで Cocco が全国で集めた短冊を辺野古の浜に届けるシーンがでてきますが、これをヒントに感想やコメント、メッセージなどを自由に書いてもらい、つなげることはできないかと考えたのが今回の「想い事」企画です。

この映画を観てくださった方は、普段の生活では目を向けることが少ない沖縄や青森・六ヶ所村などに関心もち、あるいは問題意識と出会うかも知れない。視野を広げ、世界中のどこかの誰かに私たちの「普段の暮らし」が強いている「状況」があるということに想像力を働かせるかもしれない。それを、映画を観たそれぞれが静かに持ち帰るのではなく、自分のことばで、自らの手で短冊に表し、自分自身にしっかり刻みつけて帰っていただくようにしたい…。その機会を提供するなら具体的にメッセージを届けてくる相手が提示されている方がいいのではないか、というのが企画者側のねらいです。



(c)2008 「大丈夫であるように」製作委員会

ただ、以上のような理由から、会場での呼びかけ文にも書きましたが、今回集める「想い事」の内容は問いません。映画を観て浮かんだ「想い事」であることだけが条件です。辺野古は米軍ヘリポート移設をめぐる今も反対の座り込みが続いている場所ですが、この企画を実現する TAMA 映画フォーラムは「賛成」や「反対」を表明し、実際に運動するというような性格の団体ではありません。映画・映像表現を通じてさまざまな考え方やものの見方を多くの方々に提示するところまでを、しっかりと多摩という地域に立脚して担うというのが、TAMA 映画フォーラムです。

会場で集めた「想い事」の取扱いについて、当初は沖縄在住のどなたかにお願いして東京・多摩から沖縄・辺野古にメッセージをリレーしようと考えていました。会場で感想を連ねてみる、それだけでも大きな意義があります。しかし TAMA 映画フォーラムとして責任をもって沖縄・辺野古に届けるのがベストだろうという結論に至りました。そして、僕自身が来場者のみなさんの「想い事」を沖縄まで届けに行くことにしました。そういう意志が上映会の準備を進めるなかでどんどん大きくなっていったから。とても不思議ですが、「大丈夫であるように」との出会いが僕に多くのことを気づかせ、実際に行動するようにと背中を押してくれたのだと思っています。この映画をきっかけにひととひとのつながりが生まれることを期待しています。

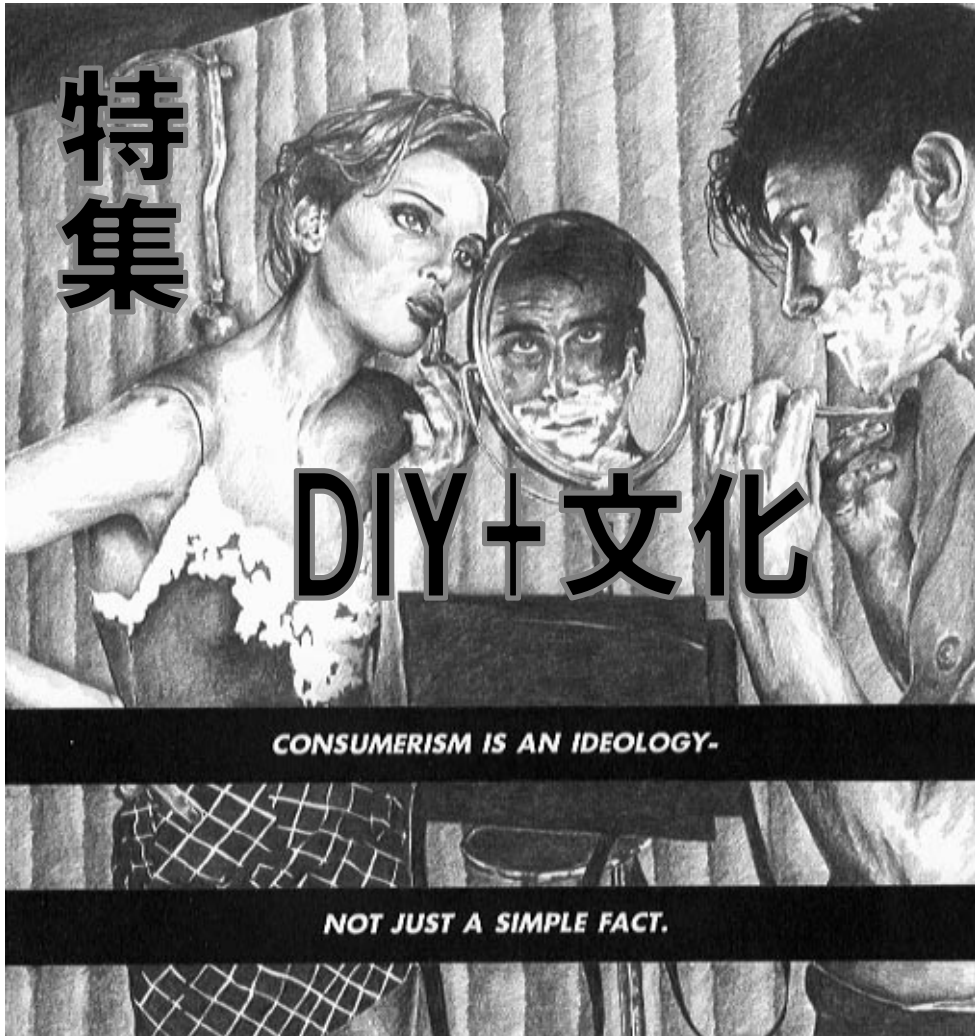
Cocco は「知らないことは罪だ」と述べています。実際に行動は起こせなくても、知らずに何かに加担してしまうことへの意識が強い。僕は「大丈夫であるように」で、初めて Cocco が語る姿を観ましたが、最初は自分の胸が締め付けられるようで、痛々しくて最後まで観られるか、本気で心配になりました。でも一方で「僕たちは泣き叫んでもいいんだ」とも感じていて、観終わってからは不思議と「何かしたい」という気持ちが芽生えていました。「Cocco が歌で何かをしようとするなら、自分は何ができるかな」ということで、Cocco は進みゆく破壊や失われつつあるものに素直にこころを寄せる感性を持っていて、すべてを自分のこととして抱えようとします。その姿勢はひとを惹きつける要素であることは間違いないですが、自分を苦しめることだって多いはず。彼女だって、ひとは完全ではないと知っているし考えるけれども、それは何かをしない理由ではなくて、何かしたくてもできないときにぶち当たる壁なんだから。歌に自信がなくなるときだってあるのです。



(c)2008「大丈夫であるように」製作委員会

この映画はたくさんのメッセージで溢れています。例えば「生きる」という叫び。これがどういう意味を持つのかを想像するだけで、たくさんのことに思いをめぐらせることができます。きっと観る者それぞれで、受けるイメージも解釈もさまざまになるでしょう。だからこそ、みなさんの映画を観ての「想い事」がどういうふうにつながっていくのが楽しみです。僕はその過程と真剣に向き合いながら、沖縄に行ってできることについて、また少し考えてみたいと思っています。

(文/山口 渉)



普段使ってる物が壊れたり、家が壊れたりしたら？
直してくれる誰かを呼ぶ？それとも捨てたりする？
それもいいけど

でも、自分で出来る事って無いのかな？

機械だって意外と自分で直せたりするし
家の修繕だって、自分で直した方が安上がりな時もある。
何より自分で出来る事が増えるのは素直に楽しいとおもわない？

最近、Do It Yourself 自身でやろう の精神で文化活動を行う人たちが目立ってきた。
そんな人たちの活動を『DIY文化』と(定義など無意味だと知りつつも)定義してみる。
この記事でそういった『DIY文化』と呼ばれるものの概観だけでも紹介できれば、と思う。

DIY ヨモヤマバナシ

いわゆるDIYっていうとトンテンカン、と切った、張った、の日曜大工を思い浮かべる人が大多数だろう。それももちろんDIYだし、実際ここで取り上げるDIYと離れたものじゃないけど、今回取り上げるのは『+文化』である。文化といえば映画や音楽や小説や、というものでそれがどう日曜大工とつながるんだ？とってしまうかもしれない。でも意外とDIY精神と文化の組合せは古い。

音楽にちょっと詳しい人ならDIY文化で思いつくのはパンクロックだろう。髪の毛を逆立てて喚き散らすアレである。この人たちは70年代末に大きな産業と化していて、メジャーなレコード会社と契約して、大きな予算をかけたロックが主流だった状況の中、ゲリラ的な戦法で今でいう自主制作、インディーズでレコードをリリースした。多くの人達はそうせざるを得なかったからそうしていたんだけど、ここから一歩進んで積極的にその方法で活動していこう、という人達が現れた。

イギリスのCRASSというバンドが代表格で彼らはレコード制作や流通、コンサートのブッキングなどを自分達の力でやった。それとほぼ同時期にアメリカや日本にもそういう人達が現れたんだけど、そこまでフォローしてしまうと違う特集になってしまうので、まあ、そういう流れがあった、と留めておいてくれれば良い。

クラブミュージックやヒップホップの初期にもそういう文化はあるし、実はそういうものが相互作用を果たして文化の土台を作り上げていっている、と言い切っても良いんじゃないでしょうか。メディアなんかに取り上げられる時には、そういう文化運動的側面は取り上げられないですが、そういう視点で見ると音楽もまた違う見え方がするとは思います。

と、ここで映画団体の会報であることを思い出しました。閑話休題。

ま、要するに企業に頼ってたポップ・カルチャーのアーティストが自主独立で活動していった結果、(見えにくくも)広範な影響を与える文化運動になっていった、と。

で、音楽だけではなく他のジャンルにもそういう動きはあって、ファンジンと呼ばれるミニコミなんかからも評価の高い作家が生まれてきていたりする。

とにかく！現在のインディー、自主という冠がつくとメジャー予備軍、とか、そうなれなかった人、という印象があるかもしれないけど、そうではなくて全く違う体系？構造？を作ろうとしているスタンスの人たちがいるんだ、という事を認識して欲しい。

て、いうか今までの話、映画関係ないじゃん！自主映画とかの事とか言えよ！などというツッコミが聞こえてきそうなので触れておくと、正直詳しくないので判らないという。とても映画団体の会報とは思えない展開を見せますが、逆にいえばそれだけ(かつてはあったにせよ)最近では表立ってそういう動きが無い、という事なのでしょうか。そしてそこがこの特集を組んだ原因でもあるのです。つまり、映画の世界にDIY文化を輸入できたら面白いんじゃないかな、と。

いや、違うお前が無知なだけでコレコレこういうものがあるんだ、という方が居たら是非知らせていただきたい。私は喜んで自分の不明を恥じ入ります。

いやあ、それにしてもなんか駄文をクドクド書くのに疲れたね。読者諸氏にも飽きてページ飛ばされたら嫌なので具体的に『DIY+文化』な活動をしてる人を紹介してみたいと思います。

Diy file 01

Irregular Rhythm Asylum



新宿御苑駅のほど近くに、『イレギュラー・リズム・アサイラム(以下 IRA)』という店がある。雑然とした店内にはCD やミニコミ、Tシャツ、その他いろいろ、コーヒーまで売っており訪れた人は「一体なんの店だ? 」と思うかもしれない。

この店は「インフォショップ」と呼ばれており国内外のDIY文化を積極的に紹介している店だ。「インフォショップ」とは本屋であり、CDショップであり、雑貨屋であり時には飲み屋になったりもする。要は非商業的な情報や活動拠点を提供する店、というかんじなのだが.....益々イメージが掴みにくくなったかも知れない(笑)

例えていうならアナーキーでメッセージ性が強いヴィレッジ・バンガード、とでもいえばわかりやすいだろうか っ、本人嫌がりそうだけど。

ま~、とにかく私がここでどうこう言うより、この店の親分に話を聞いてみる方が早いので IRAのMCである成田圭祐氏に話を聞く事にした。

TCF

「IRAとは？インフォショップ？」

IRA

「IRAは、国内外のカウンターカルチャー・社会運動に関する情報、物、そして人が集まる店です。インフォショップ云々はそういうのが説明し易い、というだけ。雑貨屋で済ます時もある（笑）」

人が集まる店、というのは実際そのとおりで、お邪魔した時には「NU MANIRA」という縫い物！をするイベントをしていて5、6人が縫い物をしていた。その中には後に紹介する「素人の乱」のドキュメンタリーを撮った方などもいて賑わいを見せていた。脱線しますが「素人の乱」のドキュメンタリーはDVDを買えば自由に上映して良いらしい。衝撃。

TCF

「活動の背景にはDIY精神があると思うのですが？」

IRA

「活動の背景にDIY精神があります。はじめはDIYなパンクシーンの影響が大きかった。ベースにはディストロ[※]がある。相手と流通、仲介業者を通さずに直接にやり取りするとか、そういう部分で」注 ディストロとは主に非商業主義的なレコードを個人流通で取り扱いライブ会場などで販売する行為、商業ベースに乗らない音源やネットワークの構築に大きな役割を果たした

ちなみに僕がIRAを知ったのもパンクが入口になっている。そういうアンダーグラウンドな音楽の世界というのは本当に生活に密着した文化で、ただ単に商品を買って満足するようなものではなく、人生の多くの部分をそこに捧げているような人達が多くいて衝撃だった。

TCF

「DIY文化をわかりやすく説明すると？」

IRA

「DIYとは、資本や国家をアテにせず、身の回りにある物や関係から、必要な物や環境を自分(たち)で作り出そうとする行為です。」

と、言う感じで他にもいろいろと興味深い話を着たのですが、全部取上げるには紙面が足りないという……。イベントに来てた方達にも話に参加してくれたりして、その話もまた面白かった。

ここまでつらつらと書いてきて自分の会報作りにおける才能の無さを痛感してるのですが、そのついでに開き直って成田氏が発行しているファンジン（氏曰く小冊子（笑）とのこと）にDIYについての文章がちょうどあるのでそれを掲載させてもらいます。

……手抜きじゃないですよ。

DO IT YOURSELF CREATE ANARCHY

街をチャリで走る時、もちろん傍らをものすごい勢いで走り抜けていく鉄の塊 = 自動車にも注意を払わなければならないが、常に路面に目を向けながら走っている。道ばたに落ちている金やらBOOKOFFに売れそうな本やらタバコやらを探す(さりげなく)ことが、長年のプレカリアート生活のおかげで一つのクセになってしまったからだ。そして、そんなふうに路面を見ながら街中をチャリで走っていると、自然と目に入ってくるのが、コンクリートの隙間や裂け目に生える草花たち、もともとは人間に定期的に植えられたものの、今やまったく無秩序・無愛想に増殖し始めた草花たちだ。そいつらは、太陽以外とくに何を指すわけでもなく、汚らしく、ずる賢く、緑色してただそこにある。まったく予想もつかない所に生えていたり、アスファルトを裂きながら成長していたりもする。そいつらの存在は、コンクリートで塗り固められた無機質な街でさえ、表面を一枚引き剥がしてみれば、水や土といった生命を育むものがそこに確かにあるのだ、という事も教えてくれる。

「DIY」 = 「自分(たち)でやる」ということだが、そんなこと言っていると「DIYをやるには田舎で自給自足しかない。」というような「答」を出されることはよくある。けれども「DIY」は、いつか到達すべき「理想」などではなく、その時に、その場で、自分(たち)で、自由や欲望の獲得・実現を追求する、ということであって、自分の今の生活や表現を窮屈にするような「目的」になってしまったら本末転倒なのである。「DIY」は、環境や状況に応じて姿・形をコロコロ変え、「完成」や「完全」は永遠にあり得ない。どんな政治体制下であろうが、それは続いてきたし、生活がある限り、それはどうしたって続くだろう。

結局、「DIY」は、あたりまえのように、そこかしこにあるもの、誰もが何かしらの形で日常の中で実践している事(出来ること)なのだ。それをわざわざ改めて「DIY」と呼び、意識的にその言葉を使うわけは、生の多様性/可能性を拡げていくためには、「そこかしこで」「誰もがやっている/出来ること」の豊かさや可能性を確認する事が不可欠だからであり、またそれらを服従や金銭を人々に要求するものたちの言葉・イメージ・商品によって隠され、阻まれているからである。

広大で豊かな土地に生える草花を思っただけ抱くのは、ぼんやりとしたあこがれみたいなもの。永遠にそれに触れることが出来ないのだとしても別に悲しくは無い。そして、コンクリートの隙間や裂け目で生えたり枯れたりしている草花を見て抱くのは、強い親しみ。「おお、なつかしいなあ」「まったく、相変わらずだね」とまあそんなところ。「DIY」とは後者の方だろう

「帝国よりも大きくゆるやかに」(ル=グウィン)DIYシーンが広がっていくことを望む。 <KN>

『EXPANSION OF LIFE』15号から転載

Diy file 02

DIY 文化に触れられるスポットを集めて見ました。ホントは個々にもっと突っ込みたいけど、なにせ締め切りがありますからね！

しかし何より DIY は自身でやるという事なので、これと呼んでるあなた自身が自律的に生きようと思えば、そこに DIY 文化が生成されるのです。とありがちっぽい締めでこの特集を終わります。

『気流舎』

下北沢にある対抗文化専門古書店。小さな店内だがカフェが併設されており珈琲、チャイやお酒も飲める。また様々なイベントも行っているのので、下北沢に行った時に寄ってみては？

営業時間：14 時くらい～23 時くらい

定休日：月曜日

住所：世田谷区代沢 5-29-17 飯田ハイツ 1F

電話：03-3410-0024

<http://www.kiryuusha.com/>

e-mail：mailto:info@kiryuusha.com

『素人の乱』

高円寺に増殖するなんでもアリな人たち。基本はリサイクルショップかな？首謀者の松本哉氏は区議会選挙にも立候補していたりしたので知ってる人もいるんじゃないでしょうか。下の住所はリサイクルショップのものです。

営業時間：12:00～深夜 1:00 ごろ

定休日：特になし

住所：杉並区高円寺北 3-9-11

電話：03-3330-2939

<http://trio4.nobody.jp/keita/index.html>

『エノアール』

アーティストの小川てつオ氏が代々木公園にあるテント村で運営する物々交換カフェ。実は行った事無いので良くわからないっす（無責任）

営業時間、定休日、住所、電話等々、詳細不明。とにかく代々木公園内にあります。

<http://yukuri.exblog.jp/>



第 19 回映画祭 新実行委員募集説明会レポート

TAMA 映画フォーラムは第 19 回映画祭に向けてスタートを切りました。実行委員は毎年新しい仲間を迎え入れています。今年は、その募集説明会を 3 月 22 日に開催しました。

当日は朝から風が強く吹き、時々小雨が降る天気でした。出席率に影響が出そうな天候でしたが、幸いにも説明会の開始時刻が近づく頃には、殆どの参加者は到着されました。

そして説明会が始まります。まず、映画祭の P R ビデオの上映。次に自己紹介。実行委員に参加するきっかけや、現在の仕事、学んでいることまで聞くことが出来ました。



タイミングよく募集を知った人、満を持して参加する人、かつて別の映画祭でスタッフをしていた人、映画の記事を書いていた人、映画を学んでいる学生。いつものように様々な背景を持った人々が参加されています。

特に今回は、映画祭に参加する前に何らかの形で映画に深く関わっていた人が多いようです。さらに好きな映画や監督の話も。『ベンジャミン・バトン数奇な人生』『ロシュフォールの恋人たち』『禅』『ジェネ

ラル・ルージュの凱旋』『小津安二郎』『寺山修司』『ジャン・リュック・ゴダール』『アニエス・ヴァルダ』。洋邦、新旧問わず、メジャーな作品から渋い作品や監督名が挙がりました。このように新しく参加する人達から受ける刺激で今年の映画祭もますます面白くなりそうです。

(文/加藤 彰義 : 写真/田口 昇)



次回説明会は6月28日(日)に行います。詳しい情報は次号で!

発行：TAMA 映画フォーラム実行委員会

THINK GLOBAL acT LOCAL



TAMA 映画フォーラム実行委員会

〒206 0025 東京都多摩市永山 1-5 (ベルブ永山) 多摩市立公民館内

TEL080-5450-7204 (直通) 042-337-6661、

FAX042-337-6003

<http://www.tamaeiga.org/>

<mailto:info@tamaeiga.org>